

【専門分野】

科目		単位	時間数	配当学年	学期	担当者
看護学概論		1	30	1	1学期	専任教員
授業目標						ディプロマポリシー
看護の主要概念である人間・健康・環境・看護について学習し、看護の本質と看護の対象としての人間を理解する。 保健医療福祉における看護の役割・機能について理解する。 看護実践の基礎となる看護理論について学ぶ。看護実践に関連する法令及び看護倫理を学ぶことにより、倫理的判断に基づく行動の基礎的能力を養う。						1・2・5・6・7
回数	時間	授業内容				備考
1	2	序 看護学概論で何を学ぶか 1.看護の概念 1)看護とは 2)看護の主要概念				
2	2	2.看護の対象の理解 1)看護の対象としての人間 2)健康障害を抱えた人の理解 3)看護の対象としての家族				
3	2	3. 国民の健康状態と生活 1)健康のとらえ方 2)国民の健康状態				
4	2	4. 看護の役割と機能 1)看護ケアについて 2)看護実践と質保障に必要な要件 3)看護の役割・機能の拡大				
5	2	5.看護の提供者 1)近代看護の確立 2)日本における看護の変遷				
6	2	3)看護職の資格・養成制度・就業状況 4)看護職者と継続教育とキャリア開発				
7	2	6.看護における倫理 1)医療倫理 2)看護倫理 3)倫理的問題と取り組み				
8	2	4)看護倫理に関する演習				
9	2	7.看護理論 1)看護理論とは 2)看護理論に基づいた実践 3)演習説明				
10	2	4)看護理論家を一人選択し、その看護理論について理解を深める				
11	2	5)看護理論演習の発表・まとめ				
12	2	8. 看護の提供の仕組み 1)サービスとしての看護 2)看護サービス提供の場				
13	2	3)看護をめぐる制度と政策 4)看護サービスの管理				
14	2	9. 医療安全 1)医療安全と質保障 2)看護業務の特性と医療事故 3)医療事故防止				
15	1	10. 広がる看護の活動領域 1)国際化と看護 2)災害時の看護				
16	1	終講試験				
授業形態	講義および演習					
評価	筆記試験および授業中の課題 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定める通りとする。					
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学 [1] 看護学概論 医学書院 看護覚え書 現代社 看護の基本となるもの 日本看護協会 やさしく学ぶ看護理論 日総研					

【専門分野】

科目		単位	時間数	配当学年	学期	担当者
看護基本技術Ⅰ		1	30	1	1学期	専任教員
授業目標						ディプロマポリシー
看護実践の中心となる技術の考え方について学び、科学的根拠に基づき、安全・安楽・自立を考えた技術を追求する姿勢を養う。人間関係の基礎となるコミュニケーションについて演習を通して理解する。						1・2・3・5
回数	時間	授業内容				備考
1	2	1.看護技術とは 2.看護技術の特徴 3.看護技術の基本原則(事故防止・感染防止) 4.看護技術を適切に実践するため要素 5.安全・安楽・自立を促す援助				
2	2	6.看護技術の検証 1)衛生的手洗い				講義・演習
3	2	2)温罨法・冷罨法				講義・演習
4	2	3)療養生活の環境				講義・演習
5	2	7.看護技術の検証:生活援助技術の検証 *「活動・休息・体位・姿勢」「清潔・衣生活」「食事」「排泄」 安全・安楽・自立についての主観的・客観的検証				グループワーク
6	2	8.安全・安楽・自立についての主観的・客観的検証				発表
7	1	9.看護介入技術 10.看護技術の「サイエンス」と「アート」 根拠に基づいた看護<EBN>の概念 ケアを通じてもたらされる安楽				
8	2	11.コミュニケーションの意義と目的 12.コミュニケーションの種類 言語的・非言語的コミュニケーション・面接技法				
9	2	13.コミュニケーションの構成要素と成立過程 コミュニケーションの構造とプロセス コミュニケーション技法				
10	2	14.関係構築のためのコミュニケーションの基本 接近性コミュニケーションの原理、接近行動 援助的関係の形成:信頼関係の構築、看護の対象との協働 患者への接近(挨拶・表情・聞く・聴く・訊く)				
11	2	15.多様な人々とのコミュニケーション				
12	2	16.看護場面でのコミュニケーション 1)拒否する患者への対応				演習
13	2	2)様々な患者とのコミュニケーション 言語障害のある患者・聴覚障害のある患者				演習
14	2	3)患者を取り巻く環境(個室・多床室)を考慮したコミュニケーション 意図的なコミュニケーション(情報収集)				演習
15	2	17.アサーティブネス アサーティブ アサーティブ行動				
16	1	終講試験				
授業形態	講義および演習					
評価	筆記試験 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定める通りとする。					
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院					
備考	実習前研修(看護基本技術実習)					

【専門分野】

科目	単位	時間数	配当学年	学期	担当者
看護基本技術Ⅱ	1	30	1	1学期	専任教員
授業目標					ディプロマポリシー
看護実践の基本となる人の身体の生命徴候や状態を観察する技術を習得し、アセスメントする技術を学ぶことができる。					1・2・3・5
回数	時間	授業内容	備考		
1	2	1. 看護におけるヘルスアセスメント 2. フィジカルアセスメントとは			
2	2	3. フィジカルアセスメントの基本技術 1)問診 2)視診 3)触診 4)聴診 5)打診	演習 課題:各測定方法について		
3	2	4. 身体計測 身長、体重、皮下脂肪厚、腹囲測定	演習		
4	2	5. バイタルサインとは バイタルサインの観察・意識・体温・呼吸・脈拍・血圧 意義、測定部位、方法、正常・異常、変動因子、使用物品	講義		
5	2	6. バイタルサインの観察 体温 呼吸 血圧 脈拍測定	演習		
6	2	7. 胸部、肺のフィジカルアセスメント 1)水平・垂直位置の同定 問診・視診・触診	講義・演習 課題:肺の解剖生理		
7	2	2)胸壁と肺の位置関係 打診・聴診	講義・演習		
8	2	8. 心臓、循環器系のフィジカルアセスメント 問診・視診・触診・聴診	講義・演習 課題:心臓の解剖生理		
9	2	9. 腹部のフィジカルアセスメント 1)腹壁と腹腔内臓器の位置関係 腹部イグザミネーションの原則 問診・視診・聴診・打診・触診	講義・演習 課題:腹部の解剖生理		
10	2	2) 問診・視診・聴診・打診・触診	演習		
11	2	10. 筋、骨格系、運動機能の観察の実際 関節可動域測定・徒手筋力テスト・反射の評価	講義・演習 課題:筋・骨格系の解剖生理		
12	2	11. 感覚系のフィジカルアセスメント 問診・視診・触診・音叉による診察 12. 脳神経系のフィジカルアセスメント	講義・演習 課題:脳の解剖生理		
13	2	13. 心理・社会的状態のアセスメント 問診(面接)・健康歴聴取	講義・演習		
14	2	14. 症状・徴候からのアセスメントの考え方 (事例で学ぶフィジカルアセスメント)	講義・演習		
15	1	実技評価(バイタルサイン測定)			
16	1	終講試験			
授業形態	講義および演習				
評価	筆記試験 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定める通りとする。				
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ 医学書院 フィジカルアセスメントガイドブック～目と手と耳でここまでわかる～第2版 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院				

【専門分野】

科目	単位	時間数	配当学年	学期	担当者
看護基本技術Ⅲ	1	30	1	2学期	専任教員
授業目標					ディプロマポリシー
問題解決思考を基に看護実践していくためのプロセスである看護過程の展開方法が理解できる。併せて看護実践に必要な、観察・記録・報告について理解する。 対象の健康にかかわる学習を支援する看護技術が理解できる。					1・2・3・5
回数	時間	授業内容			備考
1	2	1.看護過程とは 1)看護過程とは 2)看護過程の構成要素とその関係性 2.看護過程の基盤となる考え方 1)問題解決過程 2)クリティカルシンキング 3)倫理的配慮と価値判断 4)リフレクション			
2	2	3.看護過程と看護理論 1)主な理論家の看護の視点、看護の枠組みと看護過程 (ヘンダーソン・オレム・ロイ) 2)ヘンダーソンの看護理論による看護過程の展開について			課題:ヘンダーソンの看護理論についてどのような理論か、14の基本的欲求についてまとめる
3	2	4.看護過程の構成要素:アセスメント 1)情報収集の種類・分類、分析 2)全体像の把握(関連図)			
4	2	5.看護過程の構成要素:問題の明確化 1)看護問題の明確化(看護問題の種類、優先順位、問題リスト) 2)看護過程の構成要素:看護計画(目標設定)			
5	2	6.看護過程の構成要素:看護計画・実施・評価 1)看護計画の表記 2)クリティカルパス 3)評価(評価の方法)			
6	2	7.記録と報告 1)意義、目的、原則、必要性と種類(基礎情報、計画、経過記録:POS、 フローシート、フォーカスチャーターティング、看護サマリー) 2)情報管理 3)報告の目的・内容・方法			
7	2	8.看護過程演習:現象に対する展開① 事例:症状のある患者 1)アセスメント(情報収集・分析) 2)看護目標・看護問題抽出			演習 個人・グループワーク
8	2	1)アセスメント(情報収集・分析) 2)看護目標・看護問題抽出			
9	2	3)看護計画の立案(発表)			演習 個人・グループワーク
10	2	3)看護計画の立案(発表)			
11	2	4)実施・評価(援助の評価)			演習 個人・グループワーク
12	2	4)実施・評価(援助の評価)			
13	2	9.学習支援技術 1)看護における学習支援 2)学習支援の基本 3)学習支援の実際①			
14	2	4)学習支援の実際②			演習 グループワーク
15	1	まとめ			
16	1	終講試験			
授業形態	講義および演習				
評価	筆記試験および授業中の課題 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定める通りとする。				
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ 医学書院 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 看護過程に沿った対症看護 学研				

【専門分野】

科目	単位	時間数	配当学年	学期	担当者
生活援助技術 I	1	30	1	1学期	専任教員 認定看護師
授業目標					ディプロマポリシー
人間の健康回復の基盤となる環境調整について学び、その技術を習得する。 人間の基本的ニーズである食事および排泄について学び、その技術を習得する。					4
回数	時間	授業内容			備考
1	2	1.人間にとって環境とは 1)環境とは 2)外部環境・内部環境とは 3)環境因子 4)環境因子が人間に及ぼす影響 2.患者を取り巻く環境 1)病棟の構造 2)病室の構造と病床の条件 3)病床の種類 4)安楽を保つための医療環境の調整			
2	2	3.病床の作り方と整備 1)快適な病床に必要な条件 2)崩れにくいベッドメイキングの原理原則 3)ベッドメイキングと作成時の注意点 4.ベッドメイキングの実際 1)ベッドメイキングの実際 ①リネン類の準備 ②作業領域の確保 ③敷シートの作成 ④枕の作成 ⑤敷布と包布の作成 ⑥寝具のはずし方			講義・演習
3	2	5.臥床患者のリネン交換の実際			演習
4	2	1.食事に関する影響因子と食事援助の方法 1)食事の環境 2)誤嚥予防策 2.食事介助 1)安全、安楽 2)自立を支援する方法 3)自立を支援する用具 4)対象に応じた食事形態、種類 5)食事における看護の役割			講義・演習
5	2	3.食事介助の実際 1)対象に応じた食事援助 2)嚥下の観察 3)安楽な姿勢			
6	2	4.経口栄養摂取:経管栄養法、経腸栄養、経静脈栄養法 1)経口摂取ができない対象の食事、食事方法			講義・演習
7	2	5.経管栄養の実際 1)経鼻胃管カテーテルの挿入・固定・滴下調節			講義・演習
8	2	1.排泄の意義 2.排泄と環境 3.排泄物の性状 4.自然排泄に影響を及ぼす因子 5.排泄援助における看護師の役割 6.自然な排泄を促す援助 1)排泄の援助に必要なアセスメントの視点 2)排泄の援助方法の選択決定に必要な視点 3)排泄用具の種類と特徴、排泄援助のプロセス			
9	2	7.自然な排泄の援助の実際 1)トイレ(和式、洋式)、ポータブル 2)床上排泄(尿器) 3)床上排泄(便器)			講義・演習
10	2	8.おむつを用いた排泄援助の実際			講義・演習
11	2	9.排便障害の援助:摘便・浣腸			講義・演習
12	2	10.排尿障害の援助:一時的導尿			講義・演習
13	1	11.排尿障害の援助:統的導尿			講義・演習
14	2	12. ストーマケア 1)ストーマの分類・装具 2)装具の交換方法			
15	2	1)ストーマの分類・装具 2)装具の交換方法			演習
16	1	終講試験			
授業形態	講義および演習				
評価	筆記試験 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定める通りとする。				
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院				

【専門分野】

科目	単位	時間数	配当学年	学期	担当者
生活援助技術 II	1	30	1	1学期	専任教員
授業目標					ディプロマポリシー
人間の健康回復の基本となる生活行動の基盤である活動と休息について学び、その技術を習得する。人間の生活行動の基盤となる清潔・衣生活について学び、その技術を習得する。					4
回数	時間	授業内容			備考
1	2	1.活動・運動、休息の意義 2.活動の意義と生理学的影響について 3.同一体位がもたらす影響 1)活動制限がまねく影響 2)廃用症候群(症状・予防) 3)安静の目的と弊害 4)体位変換の必要性			事前課題: 同一体位による身体への影響 (体験)
2	2	4.体位変換 1)体位変換の種類と特徴 2)体位変換における身体の使い方 3)ボディメカニクス技術の基本(作業域・作業姿勢・作業面・てこの原理、力のモーメント) 4)体位変換時の危険性 5.体位保持の援助 1)体位保持の目的 2)体位保持の実際(基本体位・特殊体位)			
3	2	6.体位変換の実際 1)自然な身体の動き・てこの原理・力のモーメントの実際 (起き上がり動作・立位動作・仰臥位→側臥位) 2)長座位から端座位・端座位から立位			演習
4	2	3)水平移動(一人で進む場合、二人で進む場合、スライディングシートの活用) 7.移動の実際 ベッドから車椅子への移乗(端座位から車椅子移乗)			演習
5	2	8.移動の実際 ベッドから車いすの移動の実際			演習
6	2	9.移動・移送の援助 歩行時の援助 1)車いす移動 2)ストレッチャー 3)杖歩行 4)歩行器 5)移動・移送時の危険性 10.車椅子の移送・ストレッチャーの移乗と移送			演習
7	1	実技評価(体位変換・車いすへの移乗)			
8	2	1.望ましい病衣とは 2.寝衣交換の実際			講義・演習 事前課題:寝衣交換ワークシート 作成
9	2	3.安全・安楽な清潔援助 1)対象に応じた方法の選択(身体各部の清潔援助) 2)清潔援助の準備 3)清潔援助時の環境調整 4)身体各部の拭き方 5)湯の調整と管理 6)拭き方の工夫 7)気持ちのよい援助の工夫			講義・演習
10	2	4.全身清拭の実際			演習 全身清拭のワークシート作成
11	2	5.洗髪の援助			講義・演習 事前課題:洗髪 ワークシート作成
12	2	6.洗髪の実際			演習
13	2	7.手浴、足浴の援助			講義・演習 事前課題:足浴 ワークシート作成
14	2	8.陰部洗浄の援助			講義・演習 事前課題:陰部洗浄ワークシート作成
15	2	9.口腔ケアの援助(口腔・鼻腔吸引含む)について 10.口腔ケアの実際			講義・演習
16	1	終講試験			
授業形態	講義および演習				
評価	筆記試験 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定める通りとする。				
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学[3]基礎看護技術II 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 完全版ベッドサイドを科学する 看護に生かす物理学 学研				

【専門分野】

科目	単位	時間数	配当学年	学期	担当者
診療援助技術Ⅰ	1	30	1	2学期	専任教員
授業目標					ディプロマポリシー
微生物学の知識を活かし、感染防止における原理・原則について学んだ上で、診療の援助に必要な検体採取、呼吸を整える援助、創傷管理について学び、その技術を習得する。					1・2・3・5
回数	時間	授業内容			備考
1	2	1.感染予防の意義 1)感染成立の条件 2)感染防止についての看護師の役割 3)院内感染 2.感染経路別予防策 1)洗浄、消毒、滅菌法(使用器具の取り扱い) 2)医療廃棄物の処理 3)感染性廃棄物の取り扱い 4)感染拡大の防止の対応			
2	2	3.スタンダードプリコーション(標準予防策の方法と実際) 1)手指衛生(衛生的な手洗い) 2)防御用具(手袋、マスク、エプロン、フェイスシールド)			講義・演習
3	2	4.無菌操作の原則 滅菌法(使用器具の取り扱い) 滅菌防護具を必要とする援助と使用方法(滅菌手袋、滅菌ガウン)			講義・演習
4	2	5.創傷管理とドレッシング・包帯法 1)創傷治癒を促進する条件 2)無菌操作の方法と実際 3)創傷の保護、固定 4)止血法			講義・演習
5	2	6.創傷処置の介助 1)滅菌鑷子の取り扱い 2)綿球・ガーゼの受け渡し 3)消毒法 4)包帯法			演習
6	2	7.検査をうける対象の理解(安全に検査を受けるための環境・条件) 1)検査前・中・後の看護(CF) 2)検査における看護師の役割 8.検体検査(尿、便、喀痰、血液、胸水、腹水、髄液) 1)検体の取り扱いと検査の援助 2)検体検査の種類 3)検査値に影響を与える生理的要因 4)検体の取り間違い防止について			
7	2	9.検体の採取方法(血液):目的・種類・検査項目・検体の取り扱い 1)採血の種類・方法(静脈血採血法/動脈血採血法/毛細血管採血法) 2)検体の採取方法 静脈血採血に使用する物品と使用方法 (1)注射器の取り扱い (2)駆血帯 (3)感染防護具 (4)静脈血採血の目的・手順・根拠 (5)動脈血採血の目的・手順・根拠			
8	2	10.検体の採取方法(血液:真空管) 1)静脈血採血の実施 真空管採血のしくみ 採血順序と項目 (準備～説明～採血～止血～片付け)			演習
9	2	2)静脈血採血の実施 3)採血時のトラブルシューティング			演習
10	2	11.検体の採取方法(血液:注射器) 1)静脈血採血の実施			演習
11	2	12.検体の採取方法 穿刺検査の看護(準備～合併症予防の援助) 1)胸腔穿刺 2)腹腔穿刺 3)骨髄穿刺 4)腰痛椎穿刺			
12	2	13.呼吸を整える援助(酸素療法)の実際 1)酸素療法の目的 2)方法 3)適応 4)酸素供給源(中央配管・酸素ボンベ) 5)経皮的動脈血酸素飽和度(SpO ₂)の測定			
13	2	14.呼吸を整える援助(吸引) 1)吸引の目的 2)種類(口腔・鼻腔・気管) 3)適応 4)方法 5)体位ドレナージ			演習
14	2	15.吸引の実際(口腔・鼻腔内・気管内吸引)			演習
15	1	実技評価(静脈血採血)			
16	1	終講試験			
授業形態	講義および演習				
評価	筆記試験 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定める通りとする。				
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院				

【専門分野】

科目		単位	時間数	配当学年	学期	担当者
診療援助技術Ⅱ		1	30	1	2学期	専任教員
授業目標						ディプロマポリシー
診療の補助として必要な与薬について、薬理学の知識を活かし、薬剤・投与経路による生体への影響(作用と副作用・吸収と排泄)を理解した上で、対象の反応を観察しながら、根拠に基づいた正しい方法で確実に実施できる技術を習得できる。						1・2・3・5
回数	時間	授業内容				備考
1	2	1.薬物療法とは 1)薬物療法の意義、目的 2)与薬の基礎知識 3)薬物療法に関する法律 4)薬物療法における看護師の役割				
2	2	2.薬のメカニズム 1)薬物の剤系と与薬方法 2)薬物動態(吸収経路・投与の際の注意事項・相互作用・副作用) 3.薬物療法と医療安全 1)薬物療法における医療事故について 2)安全な薬物投与について				講義・グループワーク
3	2	4.与薬の方法と実際① 1)経口与薬・口腔内与薬 2)吸入 3)点眼 4)点鼻 5)点耳 6)経皮的与薬(外用薬・貼用薬) 7)直腸内・腔内与薬				演習
4	2	5.与薬の方法と実際②(援助の実施) 1)経口与薬 2)直腸内与薬 3)薬物療法と看護について				講義・演習
5	2	6.与薬の方法と実際:注射法① 1)皮内・皮下・筋肉内注射法 (1)注射法の種類と適応 (2)皮内・皮下・筋肉注射法と観察				
6	2	2)注射の準備 (1)アンプルのしくみ 吸い上げ				講義・演習
7	2	3)皮下注射の実際 4)筋肉内注射の実際				演習
8	2	7.与薬の方法と実際:輸液法① 1)目的 2)適応 3)種類と特徴 4)合併症 5)物品の構造と取り扱い 6)薬液の混注(アンプル使用)と輸液ラインの準備				講義・演習
9	2	7)輸液管理 2)バイアルのしくみ 8)点滴静脈注射の実際① (1)薬液の混注(アンプル使用)と輸液ラインの準備 (2)トラブル対処				講義・演習
10	2	8.与薬の方法と実際:輸液法② 1)輸液管理 2)バイアルのしくみ 3)点滴静脈注射の実際② (1)薬液の混注(バイアル使用)と輸液ラインの準備				講義・演習
11	2	4)点滴静脈注射の実際③ (1)薬液の混注(バイアル使用)と輸液ラインの準備				演習
12	2	5)点滴静脈注射の実際④ (1)静脈内穿刺(翼状針) (2)固定・注入速度の設定 (3)抜針 (留置針のしくみ、三方活栓のしくみ)				演習
13	2	9.輸血法 1)目的 2)適応 3)種類 4)取り扱い 5)副作用 6)実施前・中・後の観察				講義・演習
14	2	10. 薬物療法を受ける患者の看護 薬物の影響を考慮した生活援助				講義・演習
15	1	実技評価(輸液の準備)				
16	1	終講試験				
授業形態		講義および演習				
評価		筆記試験 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定める通りとする。				
テキスト		系統看護学講座 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院				

【専門分野】

科目	単位	時間数	配当学年	学期	担当者
看護形態機能学	1	15	1	1学期	専任教員
授業目標					ディプロマポリシー
人間のからだのしくみが、日常生活とどのように関連しているのかを学び、人間の理解と看護の展開に活かすための基本的な学習をおこなう					4
回数	時間	授業内容			備考
1	2	1. 基本的な生活行動「動く」 1) 姿勢 2) 随意運動・反射 3) からだの基本的な動き(関節可動域)			事前課題: 自らの生活行動をレポート
2	2	1) 姿勢 2) 随意運動・反射 3) からだの基本的な動き(関節可動域)			
3	2	2. エネルギーの消費を減らす生活行動「眠る」 1) サーカディアンリズム 2) レム・ノンレム睡眠 3) 睡眠姿勢			
4	2	3. 栄養吸収のための生活行動「食べる」 1) 食行動 2) 咀嚼 3) 嚥下 4) 消化と吸収			
5	2	4. 排泄のための生活行動「トイレに行く」 1) 排泄動作 2) 排尿			
6	2	3) 排泄動作 4) 排便			
7	2	5. からだを清潔にするための生活行動「風呂に入る」 1) 清潔行動 2) 垢をおとす(皮膚の働き) 3) 皮膚と粘膜 4) 温まる(皮膚感覚)			
8	1	終講試験			
授業形態	講義				
評価	筆記試験 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定める通りとする。				
テキスト	看護形態機能学 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版会 系統看護学講座 人体の構造と機能[1]解剖生理学 医学書院				

【専門分野】

科目		単位	時間数	配当学年	学期	担当者
臨床看護総論		1	15	1	2学期	専任教員
授業目標						ディプロマポリシー
臨床という場の理解、対象者の理解に焦点をあて、看護実践の基盤となる臨床看護とは何か、経過別・症状別・治療別看護の特徴と必要な援助技術を理解する。						3
回数	時間	授業内容				備考
1	2	1.健康上のニーズをもつ対象者と家族への看護 1)療養の場と看護の特徴 2)ライフサイクル 3)家族の機能 4)人々の暮らしと地域				
2	2	2.健康状態の経過に基づく看護 1)急性期の経過・特徴と看護 2)回復期の経過・特徴と看護				
3	2	3)慢性期の経過・特徴と看護 4)終末期の経過・特徴と看護				
4	2	3.主要な症状を示す対象者への看護 1)安全や生体防御機能に関連する症状を示す対象者への看護 (1)安全や生体防御機能の障害に関連する症状と発症のメカニズム (2)安全や生体防御に関連する看護上のニーズ判別のためのアセスメント				
5	2	2)安楽に関連する症状を示す対象者への看護 (1)安楽に関連する症状のメカニズム (2)痛みのメカニズム ①痛みを感じるメカニズム ②痛みをもつ患者への援助				
6	2	4.治療処置別看護 1)手術療法を受ける対象者への看護 2)化学療法を受ける対象者への 3)放射線療法を受ける対象者への看護				
7	2	5.臨床判断とは 1)臨床判断モデルの4つのフェーズ 2)「気づき」トレーニング				
8	1	終講試験				
授業形態		講義				
評価		筆記試験および授業中の課題 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定める通りとする。				
テキスト		系統看護学講座 基礎看護学[4] 臨床看護総論 医学書院				

【専門分野】

科目		単位	時間数	配当学年	学期	担当者
看護研究		1	30	2	1学期	専任教員
授業目標						ディプロマポリシー
看護研究の意義・研究の基礎を学び、科学的に看護を追求する態度を養う。事例を通して看護を振り返り、看護に必要な研究的態度を身につける。						3・6
回数	時間	授業内容				備考
1	2	1.研究とは 1)研究とは何か 2)看護研究とは 3)研究のプロセス				事後課題:リサーチクエスション
2	2	2.看護研究の始め方 1)リサーチクエスション 2)文献検索				演習 事後課題: 文献検索
3	2	3.文献の読み方 1)クリティークとは 2)クリティークの実際				事後課題: クリティーク
4	2	4.研究の設計と方法 1)質的研究と量的研究 2)研究デザイン 3)研究デザインの種類と特徴				
5	2	5.データの収集 1)データとは 2)データ収集法 3)質的データと量的データの収集方法				
6	2	6.データ分析 1)質的データ分析の基本 2)量的データ分析の基本				
7	2	7.研究計画書 1)研究計画書とは 2)研究計画書の書式と書き方 3)研究内容の具体化 8.研究における倫理的配慮 1)看護研究における倫理の考え方 2)研究対象者の権利 3)研究同意書と同意に基づく実行				事後課題:研究計画書作成準備
8	2	9.研究計画書の実際				演習
9	1	10.論文の書き方及び研究成果の公表 1)研究結果の書き方 2)研究結果の発表 3)論文作成時の留意点				
10	2	11.ケーススタディ 1)ケーススタディとは 2)目的 3)意義 4)ケーススタディ計画書				
11	2	5)レポート作成				演習
12	2	5)レポート作成				演習
13	2	5)レポート作成				演習
14	2	12.ケーススタディ発表				
15	2	12.ケーススタディ発表				
16	1	終講試験				
授業形態		講義および演習				
評価		筆記試験およびケーススタディ、研究計画書 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定める通りとする。				
テキスト		系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院 わかりやすいケーススタディの進め方 照林社				

【専門分野】

科目		単位	時間数	配当学年	学期	担当者
地域・在宅看護概論		1	15	1	2学期	専任教員
授業目標						ディプロマポリシー
地域で療養する対象とその家族を支える在宅看護の意義と役割について理解する。また、在宅療養を支える社会保障制度や社会資源について学ぶ。						1・2・7
回数	時間	授業内容				備考
1	2	1.地域と生活 2.在宅看護とは 3.在宅看護の歴史と社会背景 1)人口構成の変化 2)国民の価値観 3)療養の場 4)社会保障費 4.在宅医療・介護に関する仕組み 1)地域包括ケアシステム 5.疾病や障害を抱えた人の社会参加				
2	2	6.地域の特徴と暮らし 1)地域の特徴を知る 2)地域で暮らす人々の健康に必要な支援・活動				演習:自分の住む地域を知る グループワーク
3	2	7.地域の特徴と暮らし 8.地域・在宅看護の目的・意義・特徴 9.生活の場の種類、生活様式と価値観				
4	2	10.地域で療養する人を支える環境・保健・医療・福祉 11.訪問看護を規程する法律 1)医療保険制度 2)介護保険制度 3)訪問看護サービスの仕組み				
5	2	12.地域の特徴と暮らし 1)地域の特徴を知る 2)地域で暮らす人々の健康に必要な支援・活動				演習:自分の住む地域を知る グループワーク
6	2	13.在宅看護における倫理、対象者の権利擁護 1)アドボカシー 2)成年後見制度 14.家族の定義、機能				
7	2	15.意思決定支援				
8	1	終講試験				
授業形態		講義および演習				
評価		筆記試験 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定める通りとする。				
テキスト		系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤[1]地域・在宅看護論 医学書院 家族看護学 理論と実践 日本看護協会				

【専門分野】

科目		単位	時間数	配当学年	学期	担当者
地域・在宅看護の基礎		1	15	1	2学期	訪問看護認定看護師
授業目標						ディプロマポリシー
疾病や障害を抱えながら地域で生活を送る療養者とその家族が望む生活を支援するための看護について学ぶことができる。						4・5
回数	時間	授業内容				備考
1	2	1.在宅看護の実際 1) 継続ケア				
2	2	2.訪問看護サービスの実際 1) 訪問看護の実践例				
3	2	2) 訪問看護の実践例				演習
4	2	3.家族と在宅看護 1) ケア方法の指導 2) 介護者の健康 3) 家族のニーズ 4) レスパイトケア 4.家族と在宅危機				
5	2	5.在宅療養におけるチームケアの実際(多職種連携)				
6	2	6.理想的な在宅ケアシステム				
7	2	7.訪問看護制度の課題				
8	1	終講試験				
授業形態		講義および演習				
評価		筆記試験 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定める通りとする。				
テキスト		系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤[1]地域・在宅看護論 医学書院 家族看護学 理論と実践 日本看護協会				

【専門分野】

科目		単位	時間数	配当学年	学期	担当者
地域・在宅看護援助論		1	15	2	2学期	在宅看護専門看護師
授業目標						ディプロマポリシー
在宅で療養する人とその家族への援助の実際について学ぶことができる。						4・5
回数	時間	授業内容				備考
1	2	1.様々な療養者と家族の実際① ～認知症がある療養者と家族への訪問看護～				
2	2	2.様々な療養者と家族の実際② ～精神疾患がある療養者と家族への訪問看護～				
3	2	3.様々な療養者と家族の実際③ ～医療的ケア児・産後訪問について～				
4	2	4.様々な療養者と家族の実際④ ～心不全がある療養者と家族への訪問看護～				
5	2	5.様々な療養者と家族の実際⑤ ～がんがある療養者と家族への訪問看護～				
6	2	6.在宅における終末期ケアのプロセス ～在宅での終末期看護と家族看護～				
7	2	7.在宅看取りについて ～エンゼルケア、グリーフケア～				
8	1	終講試験				
授業形態		講義および演習				
評価		筆記試験 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定める通りとする。				
テキスト		系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤[1]地域・在宅看護論 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護の実践[2]地域・在宅看護論 医学書院 家族看護学 理論と実践 日本看護協会				

【専門分野】

科目		単位	時間数	配当学年	学期	担当者
地域・在宅援助論演習		1	30	2	2学期	在宅看護専門看護師 退院調整看護師 慢性呼吸器疾患認定看護師 看護師
授業目標						ディプロマポリシー
事例を通し、在宅療養中で日常生活援助や医療処置の必要な人とその家族の理解や看護の方法を学び、知識の統合を図ることができる。						4・5
回数	時間	授業内容				備考
1	2	1.訪問看護の実際				
2	2	2.訪問看護の実際 1)初回訪問、接遇について～				
3	1	2)コミュニケーションと信頼関係				
4	2	3)認知症がある療養者とその家族について				
5	2	3.訪問入浴の実際				
6	2	4. 訪問看護の実際 ～まとめ～				
7	2	5.退院支援と退院調整における職種とその役割 1)入退院に関する患者家族の意思決定支援 2)退院支援調整のプロセス 3)患者・家族の意思決定支援 4)地域連携バスの理解 5)外来・地域連携部門との看看連携、他職種との連携・協働				
8	2	6.在宅療養を希望する患者の看護(事例展開) 7.在宅援助論(社会保障と社会制度)				
9	2	8.慢性呼吸器疾患患者の入院時から在宅看護支援				
10	2	9.慢性呼吸器疾患患者の継続看護 在宅酸素療法中の患者の看護				
11	2	10.ALSとは 1)症状 2)性差・発症年齢 3)診断 4)患者の状態のアセスメントと援助(対応・調整) 5)社会資源の活用 6)告知について 7)在宅での急性憎悪の早期発見と対応				
12	2	8)意志決定・自己決定・家族支援 9)NIPPVについて				
13	2	11.人工呼吸療法者の注意すべき点 1)人工呼吸器管理 2)気管切開の管理 3)気管吸引				
14	2	12.コミュニケーションについて 意思伝達装置・環境制御装置				
15	2	13.胃瘻(PEG)の管理 14.ALS協会について				
16	1	終講試験				
授業形態		講義および演習				
評価		筆記試験および授業中の課題 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定める通りとする。				
テキスト		系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤[1]地域・在宅看護論 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護の実践[2]地域・在宅看護論 医学書院				

【専門分野】

科目		単位	時間数	配当学年	学期	担当者
地域包括支援方法		1	15	2	2学期	専任教員 地域連携室看護師
授業目標						ディプロマポリシー
事例を通して、多職種や居住する地域を捉えながら、地域の暮らしを支える多様な人々と連携・協働し、変化する時代や社会のニーズに対応する力を身につけることができる。						5
回数	時間	授業内容				備考
1	2	1. チーム医療とは 2. 多職種連携とは				
2	2	3. 地域と病院との連携 1) 退院支援看護師とは 2) 継続看護				
3	2	4. 事例展開①: 事例をもとに対象理解を深める				演習 グループワーク
4	2	4. 事例展開①: 事例をもとに対象理解を深める				演習 グループワーク
5	2	5. 事例展開②: 多職種との連携・協働 検討した内容をもって、多職種とカンファレンス実施				演習
6	2	5. 事例展開②: 多職種との連携・協働 検討した内容をもって、多職種とカンファレンス実施				演習
7	2	6. 事例展開③: 多職種と連携し地域で生活することを支える 検討した内容の発表・まとめ・ふりかえり				演習
8	1	終講試験				
授業形態		講義および演習				
評価		筆記試験・出席点・課題レポート 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定める通りとする。				
テキスト		系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤[1]地域・在宅看護論 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護の実践[2]地域・在宅看護論 医学書院				
その他		森ノ宮医療大学と連携教育				

【専門分野】

科目	単位	時間数	配当学年	学期	担当者
リハビリテーション看護	1	15	2	2学期	専任教員 理学療法士
授業目標					ディプロマポリシー
病や障害を抱えながらも生活者である対象のQOLを高め、看護師として対象の生命を守り多職種連携を通して生活の再構築を支援し、対象の生涯にわたって支援する必要性を考え、援助を実施することができる。					4・5
回数	時間	授業内容			備考
1	2	1.リハビリテーションの概念 2.障害の概念とアプローチ			
2	2	3.地域におけるリハビリテーション 4.在宅復帰への援助①			
3	2	5.在宅復帰への援助②			
4	2	6.援助の実際 1)ポジショニング 2)寝返り・起き上がり・立ち上がり			演習
5	2	7.リハビリテーション看護とは			
6	2	8.ステージ別リハビリテーション看護 1)経過別リハビリテーション看護 2)発達段階別リハビリテーション看護			
7	2	9.これからのリハビリテーション看護 1)地域リハビリテーションとは 2)ICTの活用やロボット工学によるその人らしい生活			
8	1	終講試験			
授業形態	講義および演習				
評価	筆記試験・出席点・課題レポート 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定める通りとする。				
テキスト	系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院				

【専門分野】

科目		単位	時間数	配当学年	学期	担当者
成人看護学概論		1	15	1	2学期	専任教員
授業目標						ディプロマポリシー
成人各期の特徴を踏まえ、成人期にある対象が持つ健康問題や家族、社会が成人の健康に及ぼす影響を理解する。 各健康レベルに応じて、成人が主体的に健康の維持、増進、疾病の回復、死の受容ができるよう看護の機能と役割、理論の基礎的看護アプローチの方法や内容を理解する。						1・2・7
回数	時間	授業内容				備考
1	2	1. 成人について 1) 成人の定義 2) 成人期の区分と各発達段階と発達課題 3) 成人期 各期の特徴(身体・心理・社会的な特徴)				事前課題: 高齢者と成人との違い
2	2	2. 成人期の人々の生活・暮らし・人生(仕事・家族) 1) 成人の生活状況の特徴 2) 成人の人生観・健康観 3) 労働力人口 3. 成人の健康の状況 1) 健康とは 2) ヘルスプロモーションと看護 地域における健康増進にむけた活動の実際				講義・演習
3	2	3) 成人期の生と死の動向 4) 健康の状況(平均寿命・死因・有訴者率・通院者率・受療状況) 5) 健康バランスに影響を及ぼす要因 (生活習慣・ストレス・職業・感染・セクシャリティ等) 6) 成人各期の健康問題				講義・演習
4	2	4. 成人の保健・医療・福祉に関わる施策				事前課題: 地域の健康に関する教育/指導(広報誌やテレビ、講演会等のお知らせなど)について調べる
5	2	5. 成人への看護アプローチの基本 1) 大人の学習と看護 2) 健康問題をもつ大人と看護師の人間関係				
6	2	6. 生活のなかで健康行動をはぐくむ援助・看護理論 健康行動理論・エンパワメントエデュケーション等				講義・演習
7	2	7. 成人期の看護の目指すもの 成人期での看護理論の活用について チームアプローチ 看護実践における倫理的判断 意思決定支援 家族支援				講義・演習
8	1	終講試験				
授業形態		講義				
評価		筆記試験 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定める通りとする。				
テキスト		系統看護学講座 成人看護学[1]成人看護学総論 医学書院 国民衛生の動向				

【専門分野】

科目	単位	時間数	配当学年	学期	担当者
成人経過別看護Ⅰ	1	30	1	2学期	専任教員 認定看護師
授業目標					ディプロマポリシー
健康状態の急激な変化により生命の危機状態にある対象とその家族について理解でき、回復支援の基盤となる知識・技術とその活用がわかる。 代表的な疾患を通して、対象の全身状態をアセスメントし急性期に必要な看護について理解する。					3
回数	時間	授業内容			備考
1	2	1.急性期・クリティカルな状態にある患者の特徴 1)急性期とは 2)クリティカルケア看護の場と特徴 3)急性期にある患者と家族の特徴			
2	2	2.急性期看護の特徴 1)急性期治療の特徴 2)手術を経験する患者の看護 3)急性期にある患者の看護 4)急性期看護における倫理的課題			
3	2	3.急性期看護に活用する理論と看護 1)ボディイメージの変化をきたした人の看護 2)ストレスモデルとコーピング 3)危機理論(フランク、アギユラ)			
4	2	4. 急性期患者のニーズ 1)心理的・社会的ニーズ 2)身体的ニーズ 3)家族のニーズ			
5	2	5.急性期にある患者への看護援助 1)生命の維持 2)呼吸・循環を整える援助 3)栄養と代謝を整える援助			
6	2	4) 心身の苦痛・不快の緩和による安楽の提供) 5)セルフケアへの支援・早期リハビリテーション			
7	2	6.胸痛を訴える患者の看護 1)胸痛のメカニズム 2)胸痛のアセスメント			
8	2	3)症状出現時の看護			意図的な情報収集と科学的根拠に基づく分析と予測
9	2	4)症状出現時の看護の実際			演習
10	2	5)症状出現時の看護の実際:リフレクション 6)急性心筋梗塞を発症した患者の看護(発症直後 亜急性期)			
11	2	7.人工呼吸器の構造と看護 1)人工呼吸器装着中の患者のケア			
12	2	8.急性症状のある患者への看護 1)外傷 2)熱傷 3)凍傷 4)骨折 5)中毒			
13	2	10. 救急時の看護 1)急変時の対応(心肺蘇生法、胸骨圧迫、人工呼吸の実際)			演習
14	2	1)急変時の対応(心肺蘇生法、胸骨圧迫、人工呼吸の実際)			演習
15	1	11. 救急時の看護 1)急変時の対応(心肺蘇生法、胸骨圧迫、人工呼吸の実際)			
16	1	終講試験			
授業形態	講義および演習				
評価	筆記試験および授業中の課題 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定める通りとする。				
テキスト	系統看護学講座 成人看護学[1] 成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 基礎看護学[4] 臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 クリティカルケア看護学 医学書院				

【専門分野】

科目		単位	時間数	配当学年	学期	担当者
成人経過別看護Ⅱ		1	30	2	1学期	医師 看護師 専任教員
授業目標						ディプロマポリシー
生体に対する侵襲的な治療法である手術療法の特徴および手術侵襲による生体反応を最小限にとどめ、治癒を促進するための知識・技術とその活用方法について理解する。事例を用いて、周手術期にある対象の回復過程におけるアセスメントと看護援助について理解する。						2・3・4
回数	時間	授業内容				備考
1	2	1.手術侵襲と生体反応 1)侵襲について 2)生体反応の経路と反応様式 3)麻酔の必要性和種類				
2	2	4)麻酔の実際(麻酔モニター・麻酔法・麻酔薬・気道確保法)				
3	2	2.手術療法と看護 1)手術の方法(開腹・開胸・開頭・内視鏡・日帰り手術による影響と援助)				
4	2	2)術前患者の看護 ①手術療法に対する理解と意思決定を支える援助 ②合併症予防・処置・指導(抗凝固薬の内服について含む) ③不安アセスメント				
5	2	2)術前患者の看護 ④手術前日、⑤当日の看護 3)術中患者の看護(麻酔の影響・術中の安全管理含む)				
6	2	4)術後患者の看護① (侵襲に対する生体反応の理解、術後合併症の発生機序、術後の疼痛管理)				
7	2	4)術後患者の看護② (術後の輸液と栄養管理、ドレーン管理、創傷の治癒過程と創傷管理)				
8	2	4)術後患者の看護③ (術後合併症予防:早期離床に向けた援助、地域在宅療養への移行に向けた看護)				
9	2	3.胃切除術を受ける患者の看護:事例展開 1)術前看護 ①意思決定支援②術前オリエンテーション③不安を軽減する看護				
10	2	1)術前看護 ④術後合併症のリスクアセスメントと援助				事前課題: 胃切除術による術後合併症
11	2	2)術直後～1日目の看護(科学的根拠に基づく病態のメカニズム) ①生体反応 ②術後の鎮痛 ③創傷管理 ④ドレーン管理				
12	2	3)術後1日目の看護:フィジカルアセスメント				演習
13	2	4)術後1日目の看護:離床援助(臨床判断) 対象の反応から離床の効果とリスクを考える				演習
14	1	5)術後合併症発症時の看護				
15	2	6)術後2日目から7日目の看護:退院に向けての援助、退院指導のポイント				
16	1	終講試験				
授業形態	講義および演習					
評価	筆記試験および授業中の課題 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定める通りとする。					
テキスト	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 クリティカルケア看護学 医学書院					

【専門分野】

科目	単位	時間数	配当学年	学期	担当者
成人経過別看護Ⅲ	1	30	2	1学期	専任教員 認定看護師
授業目標					ディプロマポリシー
生涯にわたりコントロールを必要とする対象及び家族の特徴を知り、その状況に応じた看護を理解する。事例を用いて、慢性期にある対象の理解と自己管理に向けた看護援助について理解する。					3・4
回数	時間	授業内容			備考
1	2	1.慢性期看護の考え方 慢性疾患の特徴と動向、慢性疾患とともに生きる患者と家族の特徴 治療選択・意思決定の支援、症状マネジメント、 治療や療養生活の継続的な支援と連携			
2	2	2.慢性期にある患者の看護:セルフケア・自己管理を促進する看護 1)自己効力感 2)エンパワメント 3)セルフケアマネジメント 4)病みの軌跡 5)行動変容ステージ			
3	2	6)対象理解と家族への看護 7)退院支援・調整、多職種連携 8)セルフヘルプグループ・サポートグループ、患者会の活用 9)医療費助成制度の活用			
4	2	3.慢性期にある患者の看護(慢性腎不全) 1)腎機能排尿障害・腎疾患患者の特徴 2)症状への看護:浮腫 3)尿毒症症状の予防と早期発見			
5	2	4)食事療法 5)運動療法 6)薬物療法			
6	2	4.慢性期にある患者の看護(末期腎不全:透析療法) 透析療法を受ける患者の看護:合併症予防・生活指導			
7	2	5.慢性期にある患者の看護(慢性腎不全)事例展開 *病みの軌跡を用いて慢性期にある患者の看護を考える			
8	2	5.慢性期にある患者の看護(慢性腎不全)事例展開 *病みの軌跡を用いて慢性期にある患者の看護を考える			
9	2	6.慢性期にある患者の看護(炎症性腸疾患) 1)腹痛・便秘・下痢・嘔気・嘔吐のメカニズム 2)随伴症状に応じたアセスメントと看護			
10	2	3)炎症性腸疾患のメカニズム 4)炎症性腸疾患をもつ患者への看護			
11	2	7.慢性期にある患者の看護(内分泌・代謝異常) 1)患者の特徴 2)治療目標 3)看護目標 4)糖尿病のメカニズムと症状 5)糖尿病患者の治療と看護			
12	2	6)食事療法 7)運動療法 8)薬物療法			
13	1	9)血糖測定			
14	2	10)合併症の予防とアセスメントの視点 11)生活指導と教育視点			
15	2	12)事例を用いて生活指導を実演する *変化ステージモデルを用いての事例展開 生活指導の実際			
16	1	終講試験			
授業形態	講義および演習				
評価	筆記試験および授業中の課題 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定める通りとする。				
テキスト	看護過程に沿った対症看護 学研 系統看護学講座 成人看護学 医学書院 (呼吸器、循環器、脳・神経、アレルギー・膠原病・感染症、腎・泌尿器、消化器、内分泌・代謝) 系統看護学講座 臨床看護総論 成人看護学概論				

【専門分野】

科目		単位	時間数	配当学年	学期	担当者
成人経過別看護Ⅳ		1	30	2	2学期	看護師 専任教員
授業目標						ディプロマポリシー
回復期にある患者の特徴を踏まえて、回復段階にあわせて心身の回復を促進する看護を理解する。						4
回数	時間	授業内容				備考
1	2	1.回復期にある患者の特徴 1)回復期とは 2)回復期にある患者の特徴 3)リハビリテーションとは				
2	2	2.回復期看護の特徴 1)体力の回復促進 2)潜在的合併症の予防 3)セルフケア行動確立の促進 4)生活の再構築に向けた援助				
3	2	3.回復期看護に活用する理論と看護 1)障害受容				事前課題: 事例患者の言動の意味を考える
4	2	4.意識障害のある患者の看護 1)意識障害のメカニズム 2)症状のアセスメントと看護				
5	2	5.一次性脳障害、二次性脳障害により意識障害をきたしている患者の看護				
6	2	6.高次脳機能障害(失語・失行・失認・認知機能障害)のある患者の看護				
7	2	7.痙攣をおこす患者の看護 1)痙攣発生のメカニズム 2)症状アセスメントと痙攣発作時の対応 痙攣予防に対する援助				
8	2	8.順調な回復を促すための看護 脳梗塞の回復過程にある対象の看護 (事例展開) 1)情報分析				
9	2	2)関連図				
10	2	3)問題リスト				
11	2	4)計画立案				
12	2	5)二次的障害を予防するための援助				演習 ロールプレイ
13	2	6)二次的障害を予防するための援助(評価)				
14	2	7)異常の早期発見、合併症予防に向けた看護 (頭蓋内圧亢進症状、脳ヘルニア、脳血管攣縮、水頭症) 8)脳血管疾患患者のフィジカルアセスメント				
15	1	9. まとめ				
16	1	終講試験				
授業形態	講義および演習					
評価	筆記試験 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定める通りとする。					
テキスト	系統看護学講座 成人看護学[1] 成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 成人看護学[7]脳・神経 医学書院					
その他	実習前研修(生活支援実習)					

【専門分野】

科目		単位	時間数	配当学年	学期	担当者
成人経過別看護Ⅴ		1	30	1	2学期	医師 認定看護師 がん専門看護師
授業目標						ディプロマポリシー
終末期にある対象および家族のニーズを知り、その状況に応じた看護を理解する。 がん看護における早期発見、治療、社会復帰までの経過をたどる対象とその家族への援助・支援について理解する。						2・3
回数	時間	授業内容				備考
1	2	1.がんの患者の看護 1)患者の経過 2)意思決定支援の過程と受け入れの看護 3)手術療法を受ける患者の看護				
2	2	4)薬物療法(化学療法・ホルモン療法)を受ける患者の看護 ①副作用とそのメカニズム ②苦痛と苦痛緩和への看護				
3	2	5)放射線療法を受ける患者の看護 ①対象の身体的苦痛 ②副作用とそのメカニズム ③治療(放射線療法)における苦痛と苦痛緩和への看護				
4	2	6)がん性疼痛の理解 7)呼吸困難の理解 8)がん性疼痛・呼吸困難を有する患者の看護				
5	2	9)患者のかかえる苦痛と看護 ①精神的苦痛 ②社会的苦痛 ③霊的苦痛 ④全人的苦痛 10)家族への看護(グリーフケア含む)				
6	2	2.乳がんの患者の病態生理 1)乳腺の構造 2)乳がんの疫学・分類 3)乳がんの検査・診断 4)治療および合併症				
7	2	3.乳がんの患者の看護				
8	2	4. 終末期看護の考え方 1)終末期・緩和ケア・死の定義 2)終末期看護の看護の役割と機能/目的				
9	2	5. 終末期にある人の特徴と理解 1)全人的苦痛 2)がん性疼痛 3)家族のケア				
10	2	6. 終末期にある人への看護援助 1)QOL 2)わるい知らせの伝え方 3)意思決定を支える援助 4)死にゆく人の心理過程 5)スピリチュアルケア				
11	2	6)日常生活援助の実際 7)退院支援				
12	2	7. 看取りの看護 1)死の看取りとは 2)死後のケア 3)悲嘆のケア 4)死生観				
13	1	5)死後の処置				
14	2	6)看取り場面の援助 7)死後の処置				演習
15	2	8. 終末期における倫理的課題 1)終末期にある患者・家族とのコミュニケーション 2)医療従事者のグリーフケア				グループワーク
16	1	終講試験				
授業形態		講義および演習				
評価		筆記試験 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定める通りとする。				
テキスト		系統看護学講座 成人看護学[1] 成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 基礎看護学[4] 臨床看護総論 医学書院				

【専門分野】

科目	単位	時間数	配当学年	学期	担当者
老年看護学概論	1	15	1	2学期	専任教員
授業目標					ディプロマポリシー
<p>老年期の特徴と老年期の対象を取り巻く社会を理解し、健康レベルに応じた看護の機能と役割を学び、理解する。 高齢者の健康問題は、加齢による変化を基盤に生活環境、生活習慣、疾病、リハビリテーションなど多様な因子の影響を受けることから個別的で複雑な構造を持つことを学び、理解する。これらを踏まえて、社会構造の変化とこれからの保健・医療・福祉の現状と課題を学び、理解する。</p>					1・2・7
回数	時間	授業内容			備考
1	2	1.老年期とは 1)老いのイメージ 2)老年期の定義と意義 3)加齢と老化 2.高齢者の時代背景に関連する人生と経験の多様性 (生活史・価値観・生活習慣・生活様式) 3.老年期における発達と成熟			事後課題:高齢者が「老い」についての現状や思いを表現した文章を読んで自己の考えをレポート提出する。
2	2	4.加齢に伴う変化 1)身体的変化 (外皮系・感覚器系・消化器系・運動器系<サルコペニア>) 2)心理的变化(喪失体験と適応・人格と尊厳・スピリチュアリティ) 3)社会的変化 (生活の場・生活習慣・役割と社会活動・余暇活動・家族機能・住宅環境・就労・雇用・収入・生計)			
3	2	5.高齢者疑似体験			演習) 事後課題:高齢者について理解したこと(身体・精神・社会的側面)、必要な配慮や援助についてレポート提出する。
4	2	6.わが国の高齢化 1)高齢化率・年齢3区分別人口 2)平均寿命 3)老年人口の将来推計 7.高齢者の健康 1)老年期の健康の捉え方と特徴(有訴者・受療の状況) 2)生きがいと生活の満足感 8.高齢者と家族 1)介護する家族への看護 2)介護する家族への看護 3)介護家族の課題			
5	2	9.高齢者のリハビリテーション 10.高齢社会における権利擁護 1)スティグマ・エイジズム・アボトカン 2)高齢者虐待 3)身体拘束 4)ノーマライゼーション 5)擁護のための制度 (成年後見制度・日常生活自立支援事業・自立支援とエンパワメント)			
6	2	11.老年看護の理念 1)老年看護実践の特徴(安全・安楽な生活への看護・健康の保持増進と廃用症候群の予防・疾病の治癒・回復の特徴をふまえた看護 廃用症候群の予防・疾病の治癒・回復の特徴をふまえた看護 2)在宅・施設につなげる看護(地域連携) 3)高齢者の医療安全の特徴			
7	2	12.介護保険制度のしくみ 1)保健医療福祉システムの変遷 2)介護保険制度の整備 3)高齢者医療のしくみ 13.高齢者を支える職種と活動の多様化 1)高齢者の施設・居宅サービスの特徴と看護 (介護療養型医療施設・介護老人保健施設・介護老人福祉施設・認知症対応型共同生活介護・小規模多機能型居宅介護) 14.高齢者を支える多様な職種(チームアプローチ含む) 1)看護職の活動の拡大と専門化			
8	1	終講試験			
授業形態		講義および演習			
評価		筆記試験 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定める通りとする。			
テキスト		系統看護学講座 老年看護学 医学書院			

【専門分野】

科目		単位	時間数	配当学年	学期	担当者
老年生活援助論		1	30	1	2学期	専任教員 認定看護師
授業目標						ディプロマポリシー
高齢者の健康生活の維持や生活障害をアセスメントするために必要な基礎的技術を理解する。高齢者の生きる上で持つ弱みやケア上困る問題にのみ目を奪われるのではなく、身体的・心理的・社会的潜在能力を見出す視点を養うことができる。高齢者の生命維持だけではなくQOLの視点から高齢者の健康を支える看護を理解する。						3・4
回数	時間	授業内容				備考
1	2	1. 高齢者のその人らしい生活・くらし・人生とは				事前課題： 老年期の加齢現象(身体的側面) の復習
2	2	2. 生活活動(食事・清潔・排泄)の分析 3. 加齢(解剖生理を踏まえ)に伴う高齢者の日常生活への影響について(関連マップ作成)				
3	2	4. 高齢者の生活を支える看護 1) 加齢に伴う特徴の理解 2) 基本動作と環境のアセスメント ① 起き上がり ② 立ち上がり ③ 移乗・移動動作 ④ 姿勢の保持 3) 心理・情緒機能のアセスメント 4) 日常生活活動の評価指標：国際生活機能分類(ICF)・総合機能評価(CGA) ・基本的日常生活動作(BADL・FIM・カツインデックス)・手段的日常生活動作(IADL) ・障害・認知症高齢者の日常生活自立度判定基準・要介護・要支援の認定と区分				
4	2	5. 高齢者の清潔・身だしなみ・衣生活と看護 1) 清潔・身だしなみ・更衣動作のアセスメント 2) 加齢に伴う特徴的な皮膚の変化 3) 加齢による変化を踏まえた清潔援助時の生体反応 4) 入浴行動に伴う危険性、生体反応に応じた清潔・衣生活の援助				講義・演習
5	2	6. 高齢者の睡眠と看護 1) 加齢による睡眠の特徴と睡眠障害の要因 2) 高齢者と生活リズムを調整する意義 3) 睡眠障害を有する高齢者への援助(生活リズムを整える援助)				講義・演習
6	2	7. 高齢者の排泄と看護 1) 排尿・排便動作のアセスメント 2) 加齢に伴う排泄機能の変化 3) 加齢に伴う高齢者の排尿・排便障害 ① 過活動膀胱 ② 頻尿 ③ 排尿困難 ④ 尿失禁 ⑤ 便秘 ⑥ 下痢 4) 排尿・排便障害が高齢者に及ぼす影響				講義・演習
7	2	8. 高齢者の食生活と看護 1) 食生活動作のアセスメント 2) 加齢による食生活への影響(感覚機能・摂食・嚥下・消化) 3) 食生活への影響 4) 多職種との協働による栄養管理 5) 加齢現象・高齢者の特徴を踏まえた食事の援助(食前～食後)				講義・演習
8	2	9. 高齢者の廃用症候群と看護 1) 廃用症候群の主な症状と対応 2) 廃用症候群の早期発見・予防に向けた看護				演習
9	2	10. 高齢者に起こりやすい事故と防止策 1) 発生の要因 2) 予防策と看護 3) 高齢者と医療事故				
10	2	11. 高齢者のセクシュアリティ 1) 高齢者のセクシュアリティの特徴 2) 高齢者の性生活 3) セクシュアリティのアセスメントと看護 12. 高齢者の社会参加を促す援助 1) 高齢者への社会参加の意義 2) 地域における高齢者の社会参加 3) 社会参加を促す援助				
11	2	13. エンドオブライフケア 1) 高齢者におけるエンドオブライフケア 2) 「生ききる」ことを支えるケア ① 死生観 3) 意思決定への支援 ① 尊厳 ② アドバンスケアプランニング				
12	2	14. 終末期の高齢者への援助 1) 終末段階に求められる援助的コミュニケーション 2) 終末期にある高齢者の身体的変化と援助 ① 身体的変化とアセスメント ② 終末段階の苦痛を緩和するケア				
13	2	15. 高齢者の日常生活活動のアセスメントと意思決定支援				講義・演習
14	2					
15	1	16. 高齢者の日常生活活動のアセスメントと意思決定支援のまとめ				
16	1	終講試験				
授業形態		講義および演習				
評価		筆記試験および授業中の課題 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定める通りとする。				
テキスト		系統看護学講座 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論 医学書院				

【専門分野】

科目		単位	時間数	配当学年	学期	担当者
老年主要症状別援助論		1	30	2	2学期	専任教員 認定看護師
授業目標						ディプロマポリシー
老年期に特徴的な疾患や障害を持つ人が示す主な症状とその看護について習得することができる。老年期に特徴的な認知症、精神障害について看護の基本技術を理解する。						3・4
回数	時間	授業内容				備考
1	2	1.活動に関連する機能の低下した高齢者への看護① 1)骨粗鬆症の高齢者への看護 2)骨折した高齢者、関節痛のある高齢者への看護				事前学習:骨粗鬆症の病態・症状・治療・検査、特徴的な症状
2	2	2.視聴覚機能が低下した高齢者への看護 1)白内障・緑内障の高齢者への看護 2)老人性難聴の高齢者への看護				事前学習:白内障・緑内障・老人性難聴の病態・症状・治療・検査、特徴的な症状
3	2	3.排泄機能が低下した高齢者への看護 1)前立腺肥大症の高齢者への看護				事前学習:前立腺肥大症の病態・症状・治療・検査、特徴的な症状
4	2	4.恒常性維持機能の低下した高齢者への看護 1)脱水症・熱中症の高齢者に対する看護 2)感染症 (肺炎、感染性胃腸炎、食中毒、インフルエンザ)の高齢者に対する看護 3)感染症の罹患防止と感染拡大の防止				事前学習:脱水症・熱中症・感染症の病態・症状・治療・検査、特徴的な症状
5	2	5.活動に関連する機能の低下した高齢者への看護② 1)パーキンソン症候群の高齢者への看護				事前学習:パーキンソン病の病態・症状・治療・検査、特徴的な症状
6	2	6.嚥下障害のある高齢者の看護 1)加齢に伴う嚥下機能の変化 2)食生活の支援				事前学習:摂食嚥下機能の働き
7	2	7.皮膚機能が低下した高齢者への看護 (高齢者の褥瘡・スキンケアに対する看護)1 1)褥瘡の発生機序・褥瘡のリスクアセスメント・創傷治療課程 2)褥瘡の分類 DESIGN-R(褥瘡経過評価) 褥瘡の治療・ケア栄養管理				
8	1	8.皮膚機能が低下した高齢者への看護 (高齢者の褥瘡・スキンケアに対する看護)2 1)ずれ・摩擦の予防 体圧分散用具 体圧測定				
9	2	9.認知機能の障害に対する看護 1)うつ状態の高齢者への看護				
10	2	10.せん妄のある高齢者への看護				
11	2	11.認知症の高齢者に対する看護 1)認知症とは 2)病態と要因 3)診断に必要な検査(認知機能検査・画像検査)				事前学習:認知症の病態・症状・治療・検査、特徴的な症状
12	2	4)認知機能の評価方法 (知的機能の評価・生活機能の評価・評価尺度の活用) 5)認知症の基本構造(中核症状・環境と行動・心理症状・認知症の経過) 6)行動・心理症状と生活への影響と援助				
13	2	7)認知症の治療と援助(コミュニケーション方法・療養的アプローチ 療養環境の調整・急性期一般病棟での援助・効果的な関わり方)				
14	2	8)認知症の予防 9)認知症の高齢者を持つ家族への支援とサポートシステム 10)認知症患者の権利擁護のための社会的支援・制度				
15	2	12.老年精神病の対応(事例を通して)				
16	1	終講試験				
授業形態	講義					
評価	筆記試験および授業中の課題 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定める通りとする。					
テキスト	系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論 医学書院					

【専門分野】

科目		単位	時間数	配当学年	学期	担当者
老年援助論演習		1	30	2	1学期	専任教員
授業目標						ディプロマポリシー
老年期にある対象の理解および看護の方法を学ぶ。老年期に特徴的な疾患の事例を通し知識を統合することで、対象にとって適切な援助を判断し実施することができる。						4・5
回数	時間	授業内容				備考
1	2	1. 大腿骨頸部骨折の高齢者の看護 1) 情報収集 2) 大腿骨頸部骨折の病態と治療				事前学習:大腿骨頸部の病態・症状・治療DVD
2	2	3) 手術を受ける高齢者の看護 (外来受診時、入院時、検査、手術前の看護)				
3	2	4) 手術を受ける高齢者の看護過程: 関連図				
4	2	4) 手術を受ける高齢者の看護過程: 関連図・問題の抽出				
5	2	5) 手術を受ける高齢者の看護過程の実践(手術後から回復期) 看護計画立案				グループワーク
6	2	6) 手術を受ける高齢者の看護過程: 看護計画立案				グループワーク
7	2	7) 手術を受ける高齢者の看護実践				グループワーク
8	2	7) 手術を受ける高齢者の看護実践				演習
9	2	7) 手術を受ける高齢者の看護実践				演習
10	1	8) 手術を受ける高齢者の看護のまとめ				
11	2	1. 慢性心不全の高齢者の看護 1) 情報収集 2) 心不全の病態と治療				事前学習:加齢による循環器系への影響、心不全の病態・症状・治療・検査、特徴的な症状
12	2	3) 症状アセスメントと看護(急性期)				
13	2	4) 症状アセスメントと看護(急性期～回復期)				
14	2	5) 慢性心不全の高齢者の看護の実際				演習
15	2	5) 慢性心不全の高齢者の看護の実際				演習
16	1	終講試験				
授業形態	講義および演習					
評価	筆記試験 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定める通りとする。					
テキスト	系統看護学講座 老年看護学 系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論 医学書院 系統看護学講座 成人看護学[3]循環器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学[10]運動器 医学書院					
その他	DVD:看護のためのアセスメント事例集vol.1大腿骨頸部骨折患者の看護事例 DVD:老年看護のためのアセスメント事例集vol.2慢性心不全の患者事例 実習前研修(日常生活支援実習)					

【専門分野】

科目	単位	時間数	配当学年	学期	担当者
小児看護学概論	1	15	1	2学期	専任教員
授業目標					ディプロマポリシー
小児期各期の特徴および小児が持つ健康問題や社会の変化が小児と家族に及ぼす影響について理解する。小児の成長発達を促すための家族に対する援助を理解する。小児を育てる家族が安心して育児にあたる環境づくりの在り方について理解する。					1・2・7
回数	時間	授業内容			備考
1	2	1.小児看護の対象と目的・役割 1)小児とは 2)小児看護の目標 3)小児看護の役割 2.小児看護の場と特徴			
2	2	3. 小児の成長・発達の特徴 1)成長発達とは 2)小児の発達段階区分 3)成長・発達の進み方 4)成長・発達に影響する因子 5)成長・発達の評価 4. 小児看護における概念と理論			
3	2	5.小児各期の特徴 1)新生児期・乳児期・幼児期の特徴 ①形態的特徴 ②身体的特徴 ③機能的特徴			
4	2	2)学童期・思春期・青年期の特徴 ①形態的特徴 ②身体的特徴 ③機能的特徴 6.現代社会における子どもをめぐる諸問題			
5	2	7.小児看護・医療における諸統計とその変遷・展望 1)小児看護・医療の歴史 2)小児と家族の諸統計 ①人口構造 ②出生と家族(出生数・合計特殊出生率) ③子どもの死亡(周産死亡・乳児死亡・子どもの死亡) 8. 小児看護・医療における法律 1)母子保健法 2)児童福祉法 3)児童虐待の防止等に関する法律			
6	2	9. 小児保健 1)母子保健と子育て支援 2)学校保健 3)予防接種 4)難病・障害児保健福祉			
7	2	10.小児看護における倫理 1)子どもの権利条約 2)医療における子どもの権利 3)小児医療・小児看護における倫理的配慮			
8	1	終講試験			
授業形態		講義			
評価		筆記試験 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定める通りとする。			
テキスト		新体系 看護学全書 小児看護学概論/小児保健 メヂカルフレンド社			

【専門分野】

科目		単位	時間数	配当学年	学期	担当者
小児の健康と看護		1	30	2	1学期	専任教員 助産師 看護師
授業目標						ディプロマポリシー
小児各期の特徴を理解し、健康を障害された小児および家族に疾病の回復、健康の保持・増進、成長発達を促すために必要な援助を理解する。						3・4
回数	時間	授業内容				備考
1	2	1. 小児各期の特徴と日常生活援助 1) 乳児期 2) 幼児期				
2	2	3) 学童期 4) 思春				
3	2	2. 子どものアセスメント 1) 子どものアセスメントに必要な技術 (1) コミュニケーション(2) バイタルサイン(3) 身体測定				
4	2	1) 子どものアセスメントに必要な技術 (1) コミュニケーション(2) バイタルサイン(3) 身体測定 2) 身体的アセスメント (1) 成長の評価 (2) 発達の評価				
5	2	3. 子どもの養育 1) 食の援助(成長発達に応じた食形態の選択、調乳) 2) 排泄の援助(おむつ交換) 3) 清潔援助(衣服の着脱) 4) 感染予防 5) 運動と遊び(学習)				
6	2	1) 食の援助(成長発達に応じた食形態の選択、調乳) 2) 排泄の援助(おむつ交換) 3) 清潔援助(衣服の着脱) 4) 感染予防 5) 運動と遊び(学習)				演習
7	2	4. 病気・障害を持つ小児と家族の看護 1) 病気・障害が小児と家族に与える影響 2) 小児の健康問題と看護				
8	2	5. 小児における疾病の経過と看護 1) 慢性期にある小児と家族の看護 2) 急性期にある小児と家族の看護				
9	2	3) 周手術期の小児と家族の看護 4) 終末期の小児と家族の看護				
10	2	6. さまざまな環境にある小児と家族の看護 1) 外来における看護: トリアージ・虐待への気づきと対応 2) 在宅における看護: セルフケア行動の促進				
11	2	7. 症状を示す小児の看護 1) 不機嫌・啼泣 2) 痛み 3) 呼吸困難 4) チアノーゼ 5) ショック				
12	2	6) 発熱(熱性けいれん含む) 7) 消化器症状(嘔吐・下痢・便秘) 8) 脱水 9) 浮腫				
13	2	10) 出血 11) 貧血 12) 意識障害 13) 発疹				
14	2	8. 小児の事故と外傷の看護 1) 小児の事故の特徴とその要因 2) 主な事故・外傷(外傷、誤飲・誤嚥、溺水)				
15	1	2) 主な事故・外傷(熱傷、熱中症)				
16	1	終講試験				
授業形態	講義および演習					
評価	筆記試験および授業中の課題 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定める通りとする。					
テキスト	新体系 看護学全書 小児看護学概論/小児保健 メディカルフレンド社 系統看護学講座 小児看護学[1]小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院					

【専門分野】

科目		単位	時間数	配当学年	学期	担当者
小児主要症別援助論		1	30	2	2学期	医師 専任教員 看護師
授業目標						ディプロマポリシー
小児の代表的な疾病や障害の特徴を理解し、健康障害を持つ小児と家族を含めた看護の方法を理解する。						3・4・7
回数	時間	授業内容				備考
1	2	1.循環器疾患 1)先天性心疾患 2)川崎病 3)乳幼児突然死症候群 2.腎・泌尿器疾患 1)腎不全 2)糸球体腎炎				
2	2	3.感染症 1)ウイルス感染症 2)細菌感染症 3)ロタウイルス 4)腸管出血性大腸菌感染症 4.免疫・アレルギー性疾患 1)免疫不全症 2)気管支喘息 3)アトピー性皮膚炎				
3	2	5.腫瘍性疾患 1)悪性リンパ腫 2)神経芽腫 3)脳腫瘍 4)骨肉腫 6.血液疾患 1)白血病 2)貧血 3)血友病				
4	2	7.先天異常 1)染色体異常 8.代謝性疾患 1)新生児マススクリーニング 2)アミノ酸代謝異常 糖質代謝異常 3)糖尿病				
5	2	9.内分泌疾患 1)成長ホルモン分泌不全性低身長症 2)甲状腺機能亢進症 3)甲状腺機能低下症 4)先天性副腎過形成症 5)性腺の異常 10.神経疾患 1)てんかん 2)水頭症 3)脳性麻痺 4)筋ジストロフィー				
6	2	11.消化器疾患 1)口唇・口蓋裂 2)鎖肛 3)肥厚性幽門狭窄症 4)腸重積 5)胆道閉鎖症 6)急性乳幼児下痢症 7)急性胃腸炎 12.呼吸器疾患 1)上気道の炎症(クループ症候群)2)気管支炎 3)肺炎				
7	2	1.活動制限のある小児と家族の看護 1)筋・骨格器系に障害のある患児と家族への看護 (先天性股関節脱臼:乳児期)(骨折:学童期) 2.隔離中の小児と家族の看護 1)消化器系に障害のある患児と家族への看護(感染性胃腸炎:乳幼児期)				
8	2	3.食事制限のある小児と家族の看護 1)腎・泌尿器系に障害のある患児と家族への看護(ネフローゼ症候群:学童期) 4.医療的ケアを必要として退院する小児と看護 1)内分泌・代謝系に障害のある患児と家族への看護(I型糖尿病:学童期)				
9	2	5.急性症状を呈する小児と家族の看護 1)炎症性疾患をもつ患児と家族への看護(川崎病:乳幼児期) 2)呼吸器系に障害のある患児と家族への看護(肺炎:乳幼児期) (気管支喘息:学童期)				
10	2	6.救急処置が必要な小児と家族の看護 1)熱傷状態にある患児への看護(熱傷:乳幼児期) 7.先天異常のある小児と家族の看護				
11	2	2)循環器系に障害のある患児と家族への看護 (ファロー四徴症:乳幼児期・学童期) 3)消化器系に障害のある患児と家族への看護(肥厚性幽門狭窄症:乳幼児期)				
12	2	8.筋ジストロフィーの小児と家族の看護				
13	2	9.心身障害のある小児と家族の看護 1)発達障害 2)重症心身障害(てんかん・水頭症・脳性麻痺)				
14	2	10.在宅療養を受ける小児と家族の看護 11.災害時の小児と家族への看護 1)災害による小児への影響とストレス(トリアージ含む) 2)災害時の小児と家族への援助				
15	1	12.まとめ				
16	1	終講試験				
授業形態	講義					
評価	筆記試験 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定める通りとする。					
テキスト	新体系 看護学全書 小児看護学概論/小児保健 メヂカルフレンド社 系統看護学講座 小児看護学[1]小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 小児看護学[2]小児臨床看護各論 医学書院					

【専門分野】

科目		単位	時間数	配当学年	学期	担当者
小児援助論演習		1	30	2	2学期	看護師
授業目標						ディプロマポリシー
事例を通し小児とその家族の理解及び看護の方法を理解する。小児看護に必要な技術を習得する。						1・2・4
回数	時間	授業内容			備考	
1	2	1.日常生活援助を必要とする患児の看護(看護計画立案) 1)輸液療法を受ける患児への援助(清潔・衣生活・排泄)			グループワーク	
2	2	1)輸液療法を受ける患児への援助(清潔・衣生活・排泄)			発表・まとめ	
3	2	2.薬物療法を受ける患児の看護(看護計画立案) 1)薬物動態と薬用量の決定 2)与薬(経口与薬、坐薬、点耳、点鼻、点眼、注射) 3)輸液管理 4)抑制			講義 グループワーク	
4	2	2.薬物療法を受ける患児の看護(看護計画立案)			発表・まとめ	
5	2	3.検査・治療・処置を受ける小児の看護 1)検体採取(採血、採尿、採便、骨髄穿刺、腰椎穿刺)			演習	
6	2	2)酸素療法 3)吸引 4)吸入			演習	
7	2	4.小児の救命時の看護 1)意識・呼吸状態の観察 2)心肺蘇生法 3)人工呼吸法 4)気道内異物除去			演習・講義	
8	2	5.検査を受ける患児の看護 1)プレパレーションとは 2)プレパレーションの作成計画			グループワーク	
9	2	2)プレパレーションの作成計画			グループワーク	
10	2	3)検査を受ける患児へのプレパレーション			発表・演習	
11	1	5.検査を受ける患児の看護				
12	2	6.小児の看護過程の展開(急性リンパ性白血病:乳幼児期) *細胞移植含む 1)疾患の理解と情報収集				
13	2	2)疾患、成長・発達段階、家族機能を踏まえたアセスメント				
14	2	3)看護問題の抽出 4)看護計画の立案				
15	2	6.小児の看護過程の展開			発表	
16	1	終講試験				
授業形態	講義および演習					
評価	筆記試験 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定める通りとする。					
テキスト	新体系 看護学全書 小児看護学概論/小児保健 メヂカルフレンド社 系統看護学講座 小児看護学[1]小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 小児看護学[2]小児臨床看護各論 医学書院					

【専門分野】

科目		単位	時間数	配当学年	学期	担当者
母性看護学概論		1	15	1	2学期	助産師
授業目標						ディプロマポリシー
母性の特徴を理解し対象が持つ健康問題、家族社会に及ぼす影響について学び看護の機能と役割を理解する。						1・2・7
回数	時間	授業内容				備考
1	2	1.母性看護の概念 2.母性・父性の定義 3.母性看護の対象 4.母性看護の目標				
2	2	5.母性看護と倫理 1)対象の権利と擁護 2)自己決定の尊重 3)プライバシーの保持 4)人間の性と生殖や医療における倫理 5)母性保健をめぐる問題 ①ドメスティックバイオレンス ②出生前診断 6)母子保健の現状 7)母子保健の歴史				
3	2	6.母子保健に関連する法律と施策 1)母子保健法 2)子育て支援施策 3)母性保護の関係法規 4)女性の就労の関係法規 5)母子保健に関連する統計 7.外国人妊産婦と家族への支援 8.災害時の妊産婦と家族への支援				
4	2	9.人間の性と生殖 1)性の概念 ①セックス ②ジェンダー ③セクシュアリティ ④リプロダクティブヘルス/ライツ ⑤生殖器 ⑥妊娠 ⑦性分化 ⑧性染色の異常				
5	2	10.女性のライフサイクル各期の看護 1)思春期女性の健康課題と看護 ①第二性徴 ②月経異常 ③月経教育 ④性教育				
6	2	2)成熟期女性の健康課題と看護 ①生殖器の疾患:子宮筋腫・子宮内膜症・子宮がん・乳がん ②健康課題と看護:受胎調節・避妊・家族計画				
7	2	3)更年期の健康課題と看護 ①更年期障害 ②治療 ③尿失禁 ④骨粗鬆症 ⑤高脂血症 4)老年期の健康課題と看護 ①心理 ②性 ③骨折 ④膣炎 ⑤子宮脱				
8	1	終講試験				
授業形態		講義				
評価		筆記試験 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定める通りとする。				
テキスト		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[1]母性看護学概論 医学書院				

【専門分野】

科目		単位	時間数	配当学年	学期	担当者
母性援助論 I		1	30	2	1学期	専任教員
授業目標						ディプロマポリシー
正常な妊婦・産婦・褥婦・新生児の理解と援助の方法を理解する。妊産婦をとりまく家族、環境や社会の変遷なども踏まえた関わり方について考えることができる。						2・4・7
回数	時間	授業内容				備考
1	2	1.妊娠期 1)母性看護の役割 2)諸定義 3)妊娠の成立 4)妊娠期の身体変化				
2	2	5)妊婦体験 6)骨盤ベルト・さらし体験 7)妊婦の活動・休息・姿勢など				演習:妊婦体験
3	2	8)経過診断に必要な検査(妊婦健康診査) 9)経過診断のアセスメントの視点 10)保健指導 ①マイナートラブル ②食事 ③薬剤 ④嗜好品 ⑤放射線 ⑥感染予防				
4	2	2.分娩期 1)分娩の区分 2)分娩3要素:娩出力、産道、胎児および付属物				
5	2	3)CTGモニタリング 4)分娩の経過 5)分娩第1期の看護				
6	2	講義 6)分娩経過と過ごし方 ①産痛緩和 ②呼吸法 演習 1)妊婦体操 2)産痛緩和 ①呼吸法 ②補助動作 3)産褥体操				
7	2	3.産褥期 1)定義 2)経過 3)退行性変化と進行性変化 ①退行性変化(子宮復古、悪露、会陰裂傷)				
8	2	②進行性変化(乳房、乳汁分泌、10カ条) ③母子相互作用 4)母子・父子関係確立への援助				
9	2	5)ポジショニング、ラッチ・オン 6)褥婦の日常生活とセルフケア 7)マイナートラブル ①排尿障害 ②便秘 ③マタニティブルー 8)母親への適応過程				
10	2	9)家族計画 10)産褥1か月までの褥婦への支援 11)社会資源の活用				
11	2	4.新生児 1)定義 2)出生直後の看護 3)子宮外適応現象(胎外生活適応過程) 4)新生児のバイタルサイン測定 5)新生児の生理的变化を促す看護				
12	2	講義 6)沐浴の目的・留意点 演習 1)沐浴 2)抱き方 3)衣服の着脱				演習 事前学習:各自「沐浴」動画を視聴し手順をまとめておく
13	2	5.女性のライフサイクル各期における援助(事例検討) 1)若年妊娠・出産する女性・家族に対する援助				事前学習:若年の対象への社会支援について調べまとめる
14	2	2)子宮筋腫・卵巣腫瘍摘出をうける女性に対する援助				事前学習:卵巣摘出による身体の変化や症状について調べまとめる
15	1	3)まとめ				
16	1	終講試験				
授業形態	講義および演習					
評価	筆記試験および授業中の課題 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定める通りとする。					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 母性看護学[1]母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2]母性看護学各論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[9]女性生殖器 医学書院					

【専門分野】

科目		単位	時間数	配当学年	学期	担当者
母性援助論Ⅱ		1	30	2	2学期	医師 助産師
授業目標						ディプロマポリシー
異常な妊婦・産婦・褥婦・新生児を理解し、援助の方法について学ぶことができる。						3・4
回数	時間	授業内容				備考
1	2	1.妊娠の異常 1)ハイリスク妊娠と合併症を有する妊婦 ①流産 ②早産 ③過期妊娠 ④多胎妊娠 ⑤子宮外妊娠 ⑥妊娠悪阻 ⑦妊娠高血圧症候群 ⑧血液型不適合妊娠 ⑨妊娠糖尿病⑩感染症 ⑪出生前診断 ⑫不妊症				
2	2	2.分娩の異常 1)産道の異常①骨産道②軟産道異常 2)娩出力の異常①微弱陣痛 3)胎児の異常による分娩障害 ①胎児機能不全 4)胎児付属物の異常①前置胎盤 ②常位胎盤早期剥離 ③前期破水 ④胎児機能不全 5)分娩時の損傷 6)分娩直後の異常 7)分娩時異常出血 8)産科ショック 9)産科処置・手術(帝王切開など)				
3	2	3.産褥の異常 1)子宮復古不全 2)産褥期の発熱 ①産褥熱 ②感染症 3)産褥血栓症 4)乳房の異常 ①乳腺炎 5)産後の精神症状 ①マタニティブルーズ ②産後うつ病 ③産褥精神病				
4	2	4.新生児の異常 1)新生児仮死 2)分娩外傷 3)低出生体重児 4)新生児の健康逸脱 ①呼吸器疾患 ②循環器疾患 ③代謝電解質異常 ④消化器疾患 ⑤高ビリルビン血症 ⑥感染症 ⑦新生児出血性疾患 ⑧低出生体重児 ⑨早産児 ⑩先天異常 ⑪障害をもつ新生児				
5	2	5.ハイリスク妊婦への看護 1)高年妊婦 2)若年妊婦の看護 3)肥満の妊婦 4)ART後の妊婦の看護 5)出生前診断				
6	2	6)妊娠悪阻 7)妊娠高血圧症候群 8)血液型不適合妊娠 9)多胎 10)前置胎盤 11)常位胎盤早期剥離				
7	2	12)切迫流・早産 13)過期妊娠 14)子宮外妊娠 15)合併症を有する妊婦 16)妊娠糖尿病 17)感染症				
8	2	6.分娩期の異常と看護 1)産道の異常 ①骨産道 ②軟産道 2)娩出力の異常 ①微弱陣痛 ②過強陣痛 3)子宮破裂 4)胎児機能不全				
9	2	5)胎勢・回旋異常と看護 ①骨盤位分娩など 6)胎児付属物の異常 ①癒着胎盤 ②子宮内反症				
10	2	7)産科処置と産科手術 ①吸引分娩 ②帝王切開 ③会陰切開など 8)軟産道損傷 9)産科出血 10)産科ショック 11)DIC				
11	2	7.産褥期の異常と看護 1)子宮復古不全 2)産褥熱 3)精神障害 4)感染症 5)乳頭・乳房トラブル ①乳腺炎 ②乳頭痛 ③乳汁分泌不全 ④乳汁分泌過多				
12	2	6)帝王切開術後の看護 7)深部静脈血栓症 8)死産・障害をもつ新生児を産出した褥婦の看護				
13	2	8.新生児期の異常 1)新生児仮死 2)分娩外傷 3)低出生体重児 4)早産児 5)呼吸窮迫症候群 6)胎便吸引症候群 7)動脈管開存症 8)低体温 9)低血糖				
14	2	10)高ビリルビン血症 11)黄疸増強因子 12)核黄疸 13)メレナ 14)電解質異常 15)先天異常 16)障害をもつ新生児				
15	1	9.まとめ 1)妊娠期 2)分娩期 3)産褥期 4)新生児期の異常				
16	1	終講試験				
授業形態	講義					
評価	筆記試験 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定める通りとする。					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2]母性看護学各論 医学書院					

【専門分野】

科目		単位	時間数	配当学年	学期	担当者
母性援助論演習		1	30	2	2学期	助産師
授業目標						ディプロマポリシー
事例を通し妊婦・産婦・褥婦・新生児の理解及び看護の方法を学び知識の統合を図ることができ、母性看護に必要な技術を習得できる。						1・2・4
回数	時間	授業内容				備考
1	2	1.妊娠期の看護 2.分娩期の看護				講義
2	2	3.妊娠期の看護技術 1)レオポルド触診法 2)子宮底・腹囲の測定法 3)NST装着・判読				演習
3	2	4.産褥期の看護 5.新生児期の看護				講義
4	2	6.産褥期・新生児の看護技術 1)抱き方の説明 2)授乳時の援助				演習
5	2	3)おむつ交換 4)排気 5)新生児の計測 6)新生児のバイタルサイン				演習
6	2	7.産褥期の看護計画				講義 グループワーク
7	2	7.産褥期の看護計画				グループワーク
8	2	8.保健指導の実際 1)産褥期の集団指導				講義 グループワーク
9	2	1)産褥期の集団指導				グループワーク
10	2	1)産褥期の集団指導				グループワーク
11	2	2)発表				発表
12	2	9.新生児期の看護計画				グループワーク
13	2	9.新生児期の看護計画				グループワーク
14	2	10.周産期看護の実際(看護計画発表)				グループワーク 発表
15	1	10.周産期看護の実際(看護計画発表)				
16	1	終講試験				
授業形態	講義および演習					
評価	筆記試験 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定める通りとする。					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2]母性看護学各論 医学書院					

【専門分野】

科目	単位	時間数	配当学年	学期	担当者
精神看護学概論	1	15	1	2学期	臨床心理士
授業目標					ディプロマポリシー
精神の健康問題を、精神保健・こころの健康から幅広く捉え、精神保健看護の概念を理解する。					1・2・7
回数	時間	授業内容			備考
1	2	1.精神看護学で学ぶこと 1)精神看護学とは 2)心のケアの歴史 3)精神看護の課題			
2	2	2.精神保健の考え方 1)精神の健康とは 2)心身の健康に及ぼすストレスの影響 3)精神障害という捉え方			
3	2	3.人間の心のはたらきと人格の形成 1)心のはたらき 2)心のしくみと人格の発達			
4	2	4.関係の中の人間 1)システムとしての人間関係 2)全体としての家族 3)人間と集団			
5	2	5.社会の中の精神障害 1)精神障害と治療の歴史 2)日本における精神医学・精神医療の流れ 3)精神障害と文化 4)精神障害と社会学			
6	2	5)精神障害と法制度 6)精神保健医療福祉に関連する法律 ①自殺対策基本法			
7	2	6)精神保健医療福祉に関連する法律 ②犯罪被害者等基本法 ③精神の健康を守る行政システム ④今後の展望			
8	1	終講試験			
授業形態	講義				
評価	筆記試験 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定める通りとする。				
テキスト	系統別看護学講座 精神看護学[1]精神看護の基礎 医学書院 系統別看護学講座 精神看護学[2]精神看護の展開 医学書院				

【専門分野】

科目		単位	時間数	配当学年	学期	担当者
精神援助論 I		1	30	2	1学期	看護師 非常勤講師
授業目標						ディプロマポリシー
精神障害を持つ対象とその家族への対応及び援助の方法を学び、精神障害者の権利を擁護し、地域生活を支援していく援助と社会資源の活用について理解する。						2・4・5・7
回数	時間	授業内容				備考
1	2	1.精神科の環境・精神障害者の理解と考え方				
2	2	2.統合失調症、統合失調症型障害および妄想型障害患者の看護				
3	2	3.気分障害(うつ病、双極性障害)患者の看護				
4	2	4.精神作用物質使用による精神および行動の障害のある患者の看護 5.摂食障害およびパーソナリティ障害 神経症性障害患者の看護				
5	2	6.精神を病む患者への社会復帰・社会参加を支えるチーム医療 1)精神保健医療チーム 2)多職種連携 (医師・歯科医師・保健師・作業療法士・精神保健福祉相談員・ピアサポーター・ 薬剤師・栄養士・臨床心理技術者(臨床心理士・公認心理師等))				
6	2	7.社会資源の活用とケアマネジメント 1)地域生活を支えるための社会資源・サービス ①医療に関わるサービス(自立支援医療、精神科訪問看護、精神科デイケア) ②生活を支えるサービス(「障害者総合支援法」による障害福祉サービス) ③就労移行支援 ④セルフヘルプグループ				
7	1	8.リエゾン精神看護 1)リエゾン精神看護とは何か 2)リエゾン精神看護の歴史 3)リエゾナーズの役割 4)看護師の精神的健康への支援				
8	2	9.こころが病むこと I				
9	2	10.こころが病むこと II				
10	2	11.こころが病むこと III				
11	2	12.精神援助に関するテーマ 1)心身にまたがる問題				
12	2	2)ターミナルケアにおける課題 3)PTSD(外傷性ストレス障害)				
13	2	13.心理療法的支援				
14	2	14. 地域における精神保健と精神看護 1)地域で暮らす人を支える 2)地域で生活するための原則 3)生活を支えるための資源・サービス				
15	2	4)地域での看護の実際 5)学校・職場における精神保健と精神看護 6)災害と精神看護				
16	1	終講試験				
授業形態	講義および演習					
評価	筆記試験および授業中の課題 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定める通りとする。					
テキスト	系統別看護学講座 精神看護学[1]精神看護の基礎 医学書院 系統別看護学講座 精神看護学[2]精神看護の展開 医学書院					

【専門分野】

科目		単位	時間数	配当学年	学期	担当者
精神援助論Ⅱ		1	15	2	2学期	医師
授業目標						ディプロマポリシー
主な精神疾患・障害の病態、症状、診断、治療について学び、精神障害にある対象を理解する。						3
回数	時間	授業内容				備考
1	2	1.精神科で会う人々 1)精神症状論と状態像 2)精神障害の診断と分類				
2	2	2.病態と診断・治療① 1)統合失調症 2)統合失調症型障害および妄想型障害				
3	2	3.病態と診断・治療② 1)気分(感情)障害 (双極性障害および関連障害群、抑うつ障害群)				
4	2	4.病態と診断・治療③ 1)神経症性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害				
5	2	5.病態と診断・治療④ 1)生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群 2)パーソナリティ障害 3)習慣および衝動の障害(秩序破壊的・衝動制御・素行障害群) 4)性同一性障害				
6	2	6.病態と診断・治療⑤ 1)精神作用物質使用による精神および行動の障害 2)てんかん 3)心身症				
7	2	7.病態と診断・治療⑥ 1)知的障害 2)心理的発達障害 3)小児期・青年期に発症する行動・情緒の障害				
8	1	終講試験				
授業形態		講義				
評価		筆記試験 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定める通りとする。				
テキスト		系統別看護学講座 精神看護学[1]精神看護の基礎 医学書院 系統別看護学講座 精神看護学[2]精神看護の展開 医学書院				

【専門分野】

科目	単位	時間数	配当学年	学期	担当者
精神援助論演習	1	30	2	2学期	看護師 臨床心理士
授業目標					ディプロマポリシー
事例を通して、適応障害及び精神に障害のある対象の看護展開を学び、対人プロセスをとおした生活援助について理解する。					1・2・4
回数	時間	授業内容			備考
1	2	1.援助関係の構築(信頼関係の基礎作り) 1)コミュニケーション技術 2)患者－看護師関係の発展と終結			
2	2	3)プロセスレコードの意義 4)プロセスレコードの書き方			演習
3	2	5)プロセスレコードの活用			演習
4	2	2.統合失調症患者の看護(事例展開) 1)情報収集 2)関連図			
5	2	2)関連図 3)問題リスト			
6	2	4)看護計画の立案(社会復帰に向けた援助)			
7	2	3.精神看護における安全管理 1)病棟環境の整備と行動制限 2)自殺・自殺企図・自傷行為・無断離院 3)攻撃的行動、暴力、暴力予防プログラム(CVPPP) 4)災害時の精神科病棟の安全確保			
8	2	4.虐待児の身体化に治療チームが苦慮した事例の紹介			
9	2	5.不可視である心について、理解・問題の取り扱い方、結果の検討			
10	2	6.心が身体症状として表れることが多い被虐待児の理解			
11	2	7.がんの告知と治療に対する心理的反応への危機介入事例の紹介			
12	2	8.困難な状況下で生き続けるために用いられる無意識的な防衛機制の働きの理解			
13	2	9.否定的な感情の表出が持つ機能と、医療者がそれをどう受け止めるかに関する検討			
14	2	10.重要他者の自殺によってうつ状態となった入院事例の紹介			
15	1	11.心の危機にある患者に対する支援方法の検討(レポート課題)			
16	1	終講試験			
授業形態	講義および演習				
評価	筆記試験 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定める通りとする。				
テキスト	系統別看護学講座 精神看護学[2]精神看護の展開 医学書院				

【専門分野】

科目		単位	時間数	配当学年	学期	担当者
看護管理		1	15	3	1学期	看護師
授業目標						ディプロマポリシー
看護管理の定義・原則を理解し看護活動と組織および医療安全に必要な考え方を学ぶ。 質の高い看護を提供するためのマネジメントの目的や方法を学習し、看護をマネジメントできる基礎的能力を養うと共に、医療チームにおける多職種協働の中での看護師の役割を理解する。						5・6・7
回数	時間	授業内容				備考
1	2	1.看護管理とは 1)看護管理の歴史 2)看護管理者の仕事 2.看護管理の機能と役割				
2	2	3.マネジメントに必要な知識と技術 1)組織とマネジメント 2)リーダーシップとメンバーシップ				
3	2	4.患者の権利の尊重 1)安全管理 2)組織としての安全管理 3)情報管理				
4	2	5.看護の質の保証へのマネジメント 1)看護サービスとは 2)組織目的達成・協働 3)医療におけるサービスの質の評価				
5	2	6.チームアプローチ 1)看護サービスの担い手とチーム医療 2)チーム医療(他職種との協働) 3)保健医療の機能分化と連携				
6	2	7.看護をとりまく諸制度 1)看護の定義 2)看護実践の領域と場 3)医療制度 4)看護行政の仕組み				
7	2	8.看護単位の機能と特徴 1)人事労務管理 2)物的資源管理 3)組織の調整 4)組織と個人				
8	1	終講試験				
授業形態		講義				
評価		筆記試験 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定める通りとする。				
テキスト		系統看護学講座 看護の統合と実践[1]看護管理 医学書院				

【専門分野】

科目		単位	時間数	配当学年	学期	担当者
医療安全・演習		1	15	2	2学期	専任教員 医療安全係長
授業目標						ディプロマポリシー
医療安全を確保するためのヒューマンエラーのメカニズムを理解するとともに倫理的判断に基づいた行動、安全を保障する知識と技術を学ぶ。						3・4・5
回数	時間	授業内容				備考
1	2	1. 医療安全の概念 1)安全とは、医療安全とは 2)医療安全の歴史的背景 3)人間の行動とヒューマンエラー 4)医療安全を学ぶことの意義 5)医療事故と看護業務				
2	2	2. 事故防止の考え方 1)看護事故の構造 2)看護事故防止の考え方 3. 医療安全とコミュニケーション(医療メディエーション)				
3	2	4. 組織的な安全管理体制への取り組み 1)組織としての医療安全対策 2)システムとしての事故防止(具体例) 3)重大事故発生時の医療チーム及び組織の対応				
4	2	5. 医療事故の実際と対策、法律、実例 6. 医療安全対策の国内外の潮流				
5	2	7. RCA分析の実際				演習
6	2	8. 事例検討① 療養上の世話の事故防止(安全のための身体拘束)				演習
7	2	9. 事例検討② 摂食嚥下障害のある患者の経口摂取の是非について				演習
8	1	終講試験				
授業形態		講義および演習				
評価		筆記試験 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定める通りとする。				
テキスト		系統別看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[2]医療安全 医学書院				

【専門分野】

科目		単位	時間数	配当学年	学期	担当者
キャリア形成		1	15	2	1学期	専任教員
授業目標						ディプロマポリシー
看護職のキャリア形成について学びを深め、自らのキャリアデザインを構築する。また、判断が必要な状況下で、対象にとって最良であるという判断に基づく看護行動を起こすための思考過程を学び、知的好奇心を持ち、生涯にわたって看護学を主体的に学ぶ基礎的能力を養う。						3・6
回数	時間	授業内容				備考
1	2	1. 臨床判断とは 1) 臨床推論とは 2) 臨床判断モデル				
2	2	2. 臨床判断の実際①				演習
3	2	2. 臨床判断の実際②				演習
4	2	2. 臨床判断の実際③				演習
5	2	2. 臨床判断の実際④ 実技試験(OSCE): 臨床推論に基づく患者アセスメント				
6	2	3. 看護職のキャリア形成 1) キャリアとキャリア形成 2) 看護職のキャリア形成 3) 看護専門職としての成長 4. 社会人基礎力の獲得 1) 専門職業人としての看護師に求められるもの 2) 専門職としての定義、医学・法学・神学に共通する特徴、倫理綱領、看護職者のプロフェッションフット、経験型学習、継続学習				
7	2	5. 看護職のキャリア形成の実際(病院説明) 1) セーフティネット研修・病院見学				病院見学
8	1	5. 看護職のキャリア形成の実際 1) JNP(診療看護師)のキャリア形成				レポート:「自らのキャリアデザインについて」
授業形態		講義および演習				
評価		実技試験、レポート 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定める通りとする。				
テキスト		系統看護学講座 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 看護の統合と実践[1]看護管理 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院				

【専門分野】

科目		単位	時間数	配当学年	学期	担当者
キャリア形成演習		1	30	3	1学期	専任教員
授業目標						ディプロマポリシー
看護実践に必要なアセスメントを活用し、安全を確保した看護技術の実施を学ぶ。看護実践において重視される看護の優先度を判断した行動、事例や場面に応じた適切な援助を客観的臨床能力試験および学内演習を通して習得する。						3・5・6
回数	時間	授業内容				備考
1	2	1. 看護ケアの実際① 1) チーム医療について 2) 1日の業務の組み立て方 3) 優先順位の決定の考え方				
2	2	2. 看護ケアの実際② 1) 複数受け持ちの看護 行動計画の考え方 2) 夜間の看護について				
3	2	3. 状況に応じた優先順位の考え方① 複数患者				演習・リフレクション
4	2					演習・リフレクション
5	2					演習・リフレクション
6	2	4. 症状出現時の観察と対応①				演習・リフレクション
7	2					演習・リフレクション
8	2					演習・リフレクション
9	2	5. 症状出現時の観察と対応②				演習・リフレクション
10	2					演習・リフレクション
11	2	6. 症状出現時の観察と対応③				
12	2					
13	2	6. 症状出現時の観察と対応④				
14	2					
15	1	実技試験(OSCE)				
16	1	終講試験				
授業形態	講義および演習					
評価	実技試験 筆記試験 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定める通りとする。					
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 看護管理 看護の統合と実践1 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院					
その他	全て演習であり、異なる事例であるため必ず事前学習をして臨むこと					

【専門分野】

科目	単位	時間数	配当学年	学期	担当者
災害医療	1	15	3	1学期	医師 認定看護師
授業目標					ディプロマポリシー
日本を含む世界各国の災害や健康問題を把握し、それらの問題に対する看護について基本的知識を習得し、災害時の看護が果たす役割や世界各国の看護支援活動を学ぶ。					5・7
回数	時間	授業内容	備考		
1	2	1. 災害医療総論 1) 災害の歴史と定義 2) 災害の種類と特徴 3) 災害医療の目的・特徴 4) 災害対応の基本原則(トリアージ) 5) 災害医療体制と組織間・職種間の連携(情報伝達態勢)			
2	2	2. 災害看護学 1) 災害看護の基礎知識 定義と役割、対象、特徴と看護活動、必要な情報 災害看護活動におけるアセスメント 災害看護場面におけるジレンマ			
3	2	3. 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護 ①急性期・亜急性期②慢性期・復興期③静穏期 4. 被災者特性に応じた災害看護の展開 子ども・妊産婦・高齢者・障害者・精神障害者 慢性期疾患患者・在留外国人			
4	2	5. 災害とこころのケア 1) 災害がもたらす精神的影響 2) 災害によるこころのケアとストレスマネジメント			
5	2	6. 病院における災害医療・看護 1) 病院における災害への備え 2) 災害時の初動体制 3) 災害訓練の体験から医療者に求められる姿勢 7. 災害活動の実際 1) 災害時の大阪医療センターのDMAT・初期医療班の活動内容			
6	2	8. 病院における災害対応・備え 1) 災害医療棟・備蓄庫見学	演習		
7	2	9. 国際看護学 1) 国際看護学とは 2) グローバルヘルス 3) 国際協力のしくみ 4) 開発協力と看護 5) 国際救援と看護			
8	1	終講試験			
授業形態	講義および演習				
評価	筆記試験 他の事項については履修規程の第6条、第7条に定める通りとする。				
テキスト	系統看護学講座 看護の統合と実践③ 災害看護学・国際看護学 医学書院				